

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 マルコ 柴本 孝夫

260号

2022.9.25 発行

YASURAGI



「大切な交わりを、周りに広げていきたい」

司祭 マルコ 柴本 孝夫

初めての「やすらぎ」執筆です。どうぞよろしくお願ひいたします。

当教会へ赴任し半年が過ぎようとしています。新たな任地での務め、礼拝と牧会、幼稚園のチャプレン、さらに兼務する久留米聖公会での働きなどいずれも、なかなか要領を得ずに毎日右往左往しているというのが正直なところではあります。

他でもご挨拶しましたが、じつは福岡聖パウロ教会勤務は初めてでなく、1992年からの3年間、まだ駆け出しの教役者として過ごしました。当時の牧師後藤光司祭、代わって管理された飯田徳昭主教、さらに堀尾憲孝司祭のもと、短い期間でしたが、今と同様に信徒の皆さんと、また日曜学校や青年会で楽しく過ごし、各家庭も訪問させていただいたことを懐かしく思い出します。ですから、どこか古巣に戻ってきたような感覚です。

先日ある信徒宅をお訪ねし久しぶりに再会すると、第一声は「あらっー真っ白になられましたね」のお言葉でした。そうです。すっかり白髪です。時は過ぎたのです。これはもちろん私だけではありません。当時のあどけない少女は立派なお母さんに、青年はスーツが馴染む会社員になり、新米の高齢者はベテランの高齢者になっておられます。元気な方も病と取り組んでいる方も、そしてすでに地上での生活を終え納骨堂に名を連ねる先輩方も多数お

られます。そんな状況を眺めつつ、つくづく人生は色々あるなあーと思わされています。

世界に目を向ければ、未だウクライナでは戦争が続き、あまり報道されないのですが、他地域でも大小の紛争が起こり、様々な災害が発生し続けています。それら痛ましい出来事に触れ、朝の礼拝で繰り返し「災害被災者のための祈り」をささげています。

「何ものもわたしたちをキリストの愛から引き離すことはできません。この苦難の時も、主の模範に従って、誰も孤立させないために、互いに祈り支え合う事ができますように」。これはロマ書8章35節からの言葉です。

この祈りをささげながら、私は教会の本来の姿を思わされます。私たちは、それぞれに与えられた人生において喜びと共に様々な苦しみにも直面します。到底一人では引き受けられないと思える困難にも遭遇します。でもそんな時にこそ、互いに祈り合い支え合うようにとイエスさまのもとに集められたのが教会という信仰共同体です。

このもっとも大切な交わりをこれからも継続するだけに留まらず、さらに周りの人々の間にも広げていきたいと願っています。